



にしあわくらそん

西栗倉村（西栗倉村/岡山県）

地域特性

西栗倉村は人口1,468人、高齢化率36%（H30.3）の吉野川源流部にある中山間地域です。村の総面積57.97km²のうち、93%を森林が占めており、そのうち84%が人工林です。明治期以降から木材生産が盛んでしたが昭和30年代の拡大造林時代を契機として一気にスギやヒノキの人工林面積が増加したため、50～60年生の間伐が行き届いていない樹木が多く、また村内森林の74.3%は私有林となっています。なお、村内全域で地籍調査が完了しています。

きっかけ

みまさかし

平成16年に美作市との合併協議会から離脱することを宣言した西栗倉村は産業や村財政面で自立していく必要がありました。かつては建築用材等の木材生産が積極的に行われていましたが、社会情勢の変化に伴って徐々に生産活動が衰退していきました。このまま林業の衰退傾向が続く場合、経済の衰退だけではなく村の治山治水に関わる重大な問題が多発することを懸念したことがきっかけです。

何を目指したか

50年生にまで育った森林の管理を諦めず、適切に管理された美しい森林に囲まれた地域をつくろうとする「百年の森林構想」をビジョンに掲げ、森林づくりの川上から川下までの経済活動をなるべく村内で循環させ、かつ災害のない健全な村土を保全することを目指しました。

何をやったか＜現状維持＞

「百年の森林構想」は主に2つの事業によって推進されています。1つは、村が個人所有の森林を10年間預かり一括管理を行う「長期施業管理契約」を締結し、集約化施業やFSC認証の取得を進める百年の森林創造事業です。もう1つは、間伐材を使用した商品開発やマーケティングを行う森の学校事業です。森の学校事業は若年世代の移住者が地域で起業した（株）西栗倉・森の学校（第3セクター）が担っています。この2事業を一体的に進めることで「百年の森林構想」の実現を目指します。

主な課題

＜仕組み＞

事業採算性の不透明さや資金源の少なさから、森林所有者や森林組合の投資意欲が低く、事業採算性を確保するための初期投資が困難でした。

→解決策は後述

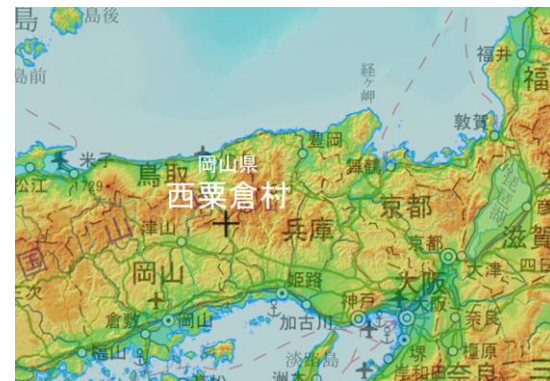
＜人（主体）＞

林業が衰退傾向にあり、担い手も高齢化している中で50年に渡る取組を継続させるためには、林業の担い手を持続的に確保することが必要でした。

→解決策は後述



森林面積が95%を占める西栗倉村（西栗倉村HPより）



●期待される効果

国土管理

- ・ 長期的かつ持続可能な森林の維持
- ・ 源流部として水源涵養機能の維持

自然共生

- ・ FSC認証を通じて生態系に配慮した林業を実施

防災・減災

- ・ 適切な森林施業の促進による土砂災害、風倒木、雪害等の防止

地域づくり

- ・ 間伐材で商品開発
- ・ 木材を活かした地域のブランディング
- ・ 百年の森林構想に移住者が参加

関連予算（※平成29年度時点）

森林環境保全直接支援事業補助金、合板・製材生産性強化対策事業補助金（林野庁）、一般財源（西栗倉村）木材の素材販売収入

問い合わせ先

西栗倉村産業観光課（0868-79-2111）

自立した村づくりの検討

百年の森林事業

今後の展望

